

神通峡 ぶらり 探訪



富山市細入地域の北部、楡原や岩稲の民家にお邪魔すると、「南無妙法蓮華経」の題目をしたためた門札が掲げられている玄関が多いことに気付く。真宗王国とされる県内にあつて、楡原は8割近い世帯が地元の法華宗、上行寺の檀家という。同寺は、信仰心のあつた住民のよりどころとなっている。同寺は創建から600年余りの歴史を誇り、同宗の一派、陣門流に属する。16世紀に時の支配者が同寺住職に帰依したことをきっかけに、楡原、岩稲、割山の全戸が檀家になったと伝わる。「堅法華」と呼ばれるほど信仰を守り抜き、昭和時代初期まで他

上行寺 富山市楡原(細入)



④本堂前に集う金子住職(左から4人目)や敬佑さん(同7人目)、津田さん(同2人目)ら＝上行寺  
⑤2014年8月に行われたジャズコンサート

信仰守るよりどころ

宗派の住民はいなかったとされる。檀家の筆頭総代を務める津田清則さん(86)＝同市楡原＝は「村全体が一つの教えを信じることで一体感を出したかったのではない」と推測する。

集落西側の山の斜面に同寺がある。約150年前、火災による延焼を防ぐため、集落の中心部から15年かけて移転。削った斜面の土を盛って平らにし、場所を確保した。高台にある寺は地区を見守る

金子光昭住職(64)は、若い世代や檀家以外の住民にも寺を訪れてもらい、交流を促そうと、法要に合わせたイベントを開く。ジャズやシンセサイザーのコンサート、民話の会とプログラムに

ようにたたずむ。寺の行事は住民同士が顔を合わせる機会でもある。趣向を凝らす。自身も雅楽の筆箒を手に、クラリネットを演奏する長男の敬佑さん(25)と共に出演した。「地域に開かれた寺を目指す」と金子住職。今秋には新たな企画を思い描いている。